

第二部 解説編 参考文献一覧

解説編で参照しているもののみ。

「衣」に入り込む戦争

大江志乃夫「“徴兵よけ”の神から千人針まで」『季刊科学と思想』三九、一九八一年。

津村薫「女性の戦争協力 銃後の女性の戦争協力を問い直す——国防婦人会の活動から」『女性ライフサイクル研究』一四、二〇〇四年。

小原解子・桎屋洋子・岡澤あやこ編『戦争とくらしの事典』（株式会社ポプラ社、二〇〇八年）。

西村明「アジア・太平洋戦争と日本の宗教研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第一四七号、二〇〇八年。

渡邊一弘「千人針研究に向けての整理」『昭和のくらし研究』六、二〇〇八年。

田中陽子「一九三七年から一九四五年までの戦時下における被服統制と供給事情」『日本家庭科教育学会誌』第五二巻第三号、二〇〇九年。

渡辺一弘「戦争の民具く千人針から千人針へ」『民具研究』一四〇、二〇〇九年。

岩崎茜・上田真紀「千人針の形状的特徴と制作方法——郷土資料館所蔵資料を中心に——」『生活と文化：研究紀要』二五、二〇一五年。

大串潤児『戦争の経験を問う 「銃後」の民衆経験 地域における翼賛運動』（岩波書店、二〇一六年）。

尾崎（井内）智子「農村生活改善による改良野良着の普及とモンペ」『東京大学日本史学研究室紀要』二〇、二〇一六年。

枝木妙子「非常服としてのモンペの〈流行〉——第二次世界大戦期の新聞や婦人雑誌の記事に着目して——」『アート・リサーチ』一九、二〇一九年。

乾淑子『着物になった〈戦争〉 時代が求めた戦争柄』（吉川弘文館、二〇一三年）。

平芳裕子『日本ファッション一五〇年 明治から現代まで』（吉川弘文館、二〇一四年）。

「食」に入り込む戦争

庄司吉宗「再ビ「どりの」ノ栄養価ニ就テ 其1 酸塩基平衡ヨリ観察シタ「どりの」ノ価値」『金沢医科大学十全会雑誌』四二—一、一九三七年。

庄司吉宗「再ビ「どりの」ノ栄養価ニ就テ 其2 体重及管状骨ニ及ボス影響ヨリ観察シタ「どりの」ノ価値」『金沢医科大学十全会雑誌』四二—二、一九三七年。

庄司吉宗「再ビ「どりの」ノ栄養価ニ就テ 其3 管状骨ニ及ボス影響、特ニソノ骨長径ノ増減ヨリ観察シタ「どりの」ノ価値」『金沢医科大学十全会雑誌』四二—三、一九三七年。

杉山敬一「幻の可睡競馬場」『ふるさと袋井』第八集、一九九三年。

木村茂光『ハタケと日本人 もう一つの農耕文化』（中公新書、一九九六年）。

早川いくを『取るに足らない事件』（バジリコ株式会社、二〇〇八年）。

盛本昌広『贈答と宴会の中世』（吉川弘文館、歴史文化ライブラリー、二〇〇八年）。

日高秀昌・岸原士郎・斎藤祥治編『砂糖の事典』（東京堂出版、二〇〇九年）。

桜井英治『贈与の歴史学 儀礼と経済のあいだ』（中公新書二二三九、二〇一一年）。

宮島英紀『伝説の「どりこの」 一本の飲み物が日本人を熱狂させた』（角川書店、二〇一一年）。

倉沢愛子『戦争の経験を問う 資源の戦争——「大東亜共栄圏」の人流・物流』（岩波書店、二〇一二年）。

アンドルー・F・スミス 著／手嶋由美子 訳『砂糖の歴史』（原書房、二〇一六年、原著二〇一五年）。

ローラ・メイソン 著／龍和子 訳『キャンディと砂糖菓子の歴史物語』（原書房、二〇一八年、原著二〇一八年）。

江後迪子『砂糖の日本史』（同成社、二〇二二年）。

生活

伊藤康子「地域女性史からみた愛国婦人会」（『中京女子大学研究紀要』三二、一九九七年）。

高木敬雄「浅羽の用悪水と河川改修」（浅羽町史編さん委員会編『浅羽町史 通史編』浅羽町、二〇〇〇年）。

高岡裕之「戦時動員と福祉国家」（『岩波講座 アジア・太平洋戦争 3 動員・抵抗・翼賛』岩波書店、二〇〇六年）。

裕夕記「少女たちの戦時体験——愛国婦人会と愛国子女団を中心に——」（『大阪人権博物館紀要』一二、二〇〇九年）。

関野満夫「日本の戦費調達と国債」（『経済学論纂（中央大学）』第六〇巻第二号、二〇一九年）。

土田宏成・吉田律人・西村健 編著『首都圏史叢書⑧ 関東大災害——忘れられた1910年の大災害』（日本経済評論社、二〇二三年）。

土田宏成『災害の日本近代史 大凶作、風水害、噴火、関東大震災と国際関係』（中公新書、中央公論新社、二〇二三年）。

兵の見送りと帰還

喜多村理子『徴兵・戦争と民衆』（吉川弘文館、一九九九年）。

吉良芳恵「昭和期の徴兵・兵事史料から見た兵士の見送りと帰還」（『国立歴史民俗学博物館研究報告』第一〇一集、二〇〇三年）。

伊香俊哉『戦争の日本史 22 満州事変から日中全面戦争へ』（吉川弘文館、二〇〇七年）。

大串潤児「済南事件と長野県——新出史料の紹介と若干の論点の提示——」（『長野県立歴史館研究紀要』二六、二〇二〇年）。

森久男「関東軍の内蒙工作と蒙疆政権の成立」『岩波講座 近代日本と植民地1 植民地帝国日本』岩波書店、一九九二年。
秦郁彦編『世界諸国の制度・組織・人事 1840―2000』(東京大学出版会、二〇〇一年)。
川原勝彦「中共政権の成立と中国同郷団体の改造・解体―上海の公所・会館の事例を中心に―」『アジア経済』四六、二〇〇五年)。

石油

入江寿紀「明治期福岡地方石油史(一)―石炭油から石油へ」『エネルギー史研究…石炭を中心として』三、一九七四年)。
入江寿紀「明治期福岡地方石油史(二)―石炭油から石油へ」『エネルギー史研究…石炭を中心として』四、一九七四年)。
有岡利幸『ものと人間の文化史 84 松茸(まつたけ)』(法政大学出版局、一九九七年)。
倉沢愛子『戦争の経験を問う 資源の戦争―「大東亜共栄圏」の人流・物流』(岩波書店、二〇一二年)。

肥料

小野寺伊勢之助「紫雲英の稲作に及ぼす影響及其有害作用の原因に就て」『農学講演集』二、一九二〇年)。
小西亀太郎『緑肥と根粒菌の研究』(朝倉書店、一九四七年)。
桑田時一郎「ハーバー・ボッシュ法について」『化学工業』二(五)、一九五一年)。
古島敏雄『日本農業技術史』(時潮社、一九五四年)。
塩崎尚郎編『肥料便覧 第6版』(農産漁村文化協会、二〇〇八年)。
木村茂光編『日本農業史』(吉川弘文館、二〇一〇年)。
田村隆「ニトロゲナーゼの窒素固定と水素生産の電子機構」『ビタミン』八九(八)、二〇一五年)。
藤田照典・市川真一郎「歴史の散歩道(18) ハーバー・ボッシュ法の開発―光と影」『エネルギー・資源』三八(二)、二〇一七年)。
前田勇「微生物共培養による窒素固定能の発現 微生物共生体における窒素からアンモニアへの変換」『化学と生物』五五―二、二〇一七年)。

養兔

山口俊策「時局と養兔業」『地理』二(二)、一九三九年)。
正田陽一「自然の文化誌 家畜編 23 ウサギの転職―日本の養兔業の歩み」『自然≡Nature』37(11)、一九八二年)。
有馬学『日本の歴史 23 帝国の昭和』(講談社学術文庫、二〇一〇年、初出二〇〇二年)。
森治子「明治大正期の博覧会と兔」『風俗史学』一九、二〇〇二年)。
伊香俊哉『戦争の日本史 22 満州事変から日中全面戦争へ』(吉川弘文館、二〇〇七年)。

馬場基「荷札と荷物のかたるもの」(『日本古代木簡論』吉川弘文館、二〇一八年、初出二〇〇八年)。
宇仁義和「近代日本の養鬼事業(1) 戦前編…副業と軍需物資の間で」(『オホーツク産業経営論集』30(1)、二〇二二年)。

婦人会

伊藤康子「地域女性史からみた愛国婦人会」(『中京女子大学研究紀要』三一、一九九七年)。

池田順「国防婦人会のこと」(『千葉史学』四七、二〇〇五年)。

上田学「初期愛国婦人会と映画―日露戦争期の地方遊説活動を中心に―」(『日本思想史研究会会報』二四、二〇〇六年)。

碓夕記「少女たちの戦時体験―愛国婦人会と愛国子女団を中心に―」(『大阪人権博物館紀要』一二、二〇〇九年)。

池田順「地方における国防婦人会の設立と活動―千葉県事例から―」(『千葉史学』六〇、二〇一二年)。

井上直子「愛国婦人会の救済事業と女性の「軍事化」」(『史海』六三、二〇一六年)。

戦争の時代のことどもたち

磯田仙三郎講述／川野邊静子筆記「穀粉栄養障碍」(『東京女医学会雑誌』一(三)、一九三二年)

高岡裕之「戦時動員と福祉国家」(『岩波講座 アジア・太平洋戦争 3 動員・抵抗・翼賛』岩波書店、二〇〇六年)。

荻野美穂「人口政策と家族―国のために産むことと産まぬこと」(『岩波講座 アジア・太平洋戦争 3 動員・抵抗・翼賛』岩波書店、二〇〇六年)。

浅野俊和「戦時下保育運動における農繁期託児所研究―「保育問題研究会」を中心に―」(『中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要』八、二〇〇七年)。

池田順「地方における国防婦人会の設立と活動―千葉県の事例から―」(『千葉史学』六〇、二〇一二年)。

矢治夕起「昭和戦中期の戦時託児所について―幼稚園から戦時託児所への転換事例―①」(『淑徳短期大学研究紀要』第五三号、二〇一四年)。

井上直子「愛国婦人会の救済事業と女性の「軍事化」」(『史海』六三、二〇一六年)。

金慶玉「戦時期における農村託児所の研究―「津田子供の家」の設置と活動を中心にして―」(『アジア地域文化研究』一三、二〇一七年)。
落合のり子「島根県の戦時下における農繁期共同炊事・共同託児所と保健婦活動」(『島根県立大学出雲キャンパス紀要』第一三卷、二〇一八年)。

ラジオ

田中元峰「昭和天皇の御大典奉祝と大嘗祭の式典を古文書に見る(宇刈村近代役場文書)」(『ふるさと袋井』第五集、一九九〇年)。
竹山昭子『戦争と放送』(吉川弘文館、読みなおす日本史、二〇一八年、初出一九九四年)。

佐藤卓己『現代メディア史』（岩波書店、一九九八年）。

前坂俊之『太平洋戦争と新聞』（講談社学術文庫、二〇〇七年）。

岡部匡伸『ラジオの技術・産業の百年史 大衆メディアの誕生と変遷』（勉誠出版、二〇二〇年）。

釘貫亨『日本語の発音はどう変わってきたか 「てふてふ」から「ちようちよう」へ、音声史の旅』（中公新書、二〇二三年）。

防空

防衛庁防衛研修所戦史室『戦史叢書 本土防空作戦』（朝雲新聞社、一九六八年）。

有馬亨『日本の歴史23 帝国の昭和』（講談社学術文庫、二〇一〇年、初出二〇〇二年）。

前坂俊之『太平洋戦争と新聞』（講談社学術文庫、二〇〇七年）。

小原解子・梶屋洋子・岡澤あやこ編『戦争とくらしの事典』（株式会社ポプラ社、二〇〇八年）。

大井昌靖「昭和期の軍隊による災害・戦災救援活動——衛戍令、戦時警備及び防空法の関係から——」（『軍事史学』四八（一）、二〇二二年）。

倉沢愛子『戦争の経験を問う 資源の戦争——「大東亜共栄圏」の人流・物流』（岩波書店、二〇二二年）。

高岸冨佳「昭和戦前期における警視庁と「国民消防」（『史学雑誌』一二七（六）、二〇一八年）。

土田宏成『災害の日本近代史 大凶作、風水害、噴火、関東大震災と国際関係』（中公新書二七六二、二〇二三年）。

風船爆弾

荒川秀俊「風船爆弾の気象学的原理」（『航空学会誌』第一卷第二号、一九五三年）。

肥田木安「風船爆弾の思い出」（『水利科学』二二（二）、一九七八年）。

松井かおる「風船爆弾製造と学徒勤労動員——風船爆弾関係文書を中心に——」（『東京都江戸東京博物館研究報告』第一六号、二〇一〇年）。

塚本百合子「風船爆弾に利用された「紙」（『明治大学平和教育登戸研究所資料館報』一、二〇一六年）。

山田朗「紙と戦争——登戸研究所と風船爆弾・偽札——」（『明治大学平和教育登戸研究所資料館報』一、二〇一六年）。

塚本百合子「風船爆弾作戦の遂行と終結」（『明治大学平和教育登戸研究所資料館報』二、二〇一六年）。

安斎克仁「風船爆弾になった和紙——福島県上川崎産和紙——」（『第12回阿武隈水系研究会発表要旨集』、二〇二一年）。

菓の戦争

笠松宏至「夜討ち」（網野善彦・石井進・笠松宏至・勝俣鎮夫『中世の罪と罰』東京大学出版会、一九八三年）。

黒田日出男「戦国・織豊期の技術と経済発展」（歴史学研究会・日本史研究会編『講座日本歴史4 中世2』東京大学出版会、一九八五年）。

袋井市史編纂委員会編『目でみる袋井市史』（袋井市役所、一九八六年）。

永原慶二『苧麻・絹・木綿の社会史』（吉川弘文館、二〇〇四年）。

右田裕規「「夜なべ」の近代史」（近森高明・右田裕規編『夜更かしの社会史 安眠と不眠の日本近現代』吉川弘文館、二〇二四年）。

映画

吉本富男「民力涵養運動の一考察」（『国史学』八九、一九七二年）。

古川隆久『戦時下の日本映画（新装版） 人々は国策映画を見たか』（吉川弘文館、二〇一三年、初出二〇〇三年）。

岩本通弥「可視化される習俗 民力涵養運動期における「国民儀礼」の創出」（『国立歴史民俗博物館研究報告』一四一、二〇〇八年）。

大串潤児『戦争の経験を問う 「銃後」の民衆経験 地域における翼賛運動』（岩波書店、二〇一六年）。

岩田託子「幻灯が明治の人に見せたもの——英米からの視点——」（『中京大学国際学部紀要』二、二〇二一年）。

福島可奈子「明治の国家教育をめぐる視覚メディア利用——「修身」幻灯の変遷を中心に」（『映像学』一〇七、二〇二二年）。

一九四四年東南海地震

東南海地震記録編集委員会編『昭和19年 東南海地震の記録』（静岡県中遠振興センター、一九八二年）。

山下文男『戦時報道管制下 隠された大地震・津波』（新日本出版社、一九八六年）。

青島晃・土屋光永・中野幸子・野嶋宏二・松井孝友「一九四四年東南海地震により発生し静岡県西部地方と三重県南部地方で記録された地鳴りの方向性」（『歴史地震』第20号、二〇〇五年）。

羽島徳太郎「一九四四年東南海地震津波の目視観測記録——東大地震研究所の通信調査報告から」（『津波工学研究報告』第22号、二〇〇五年）。

中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会『一九四四年東南海・一九四五年三河地震報告書』（二〇〇七年）。

川窪広明「一九四四年の東南海地震と津波の体験談に見る被災者の避難行動」（『大手前大学論集』第15号、二〇一四年）。

武村雅之「一九四四年東南海地震の被害と教訓」（『日本地震工学会誌』二二、二〇一四年）。

武村雅之・虎谷健司「一九四四年12月7日東南海地震の被害統計資料の再整理——震度分布と被害の特徴——」（『中部「歴史地震」研究年報』2、二〇一四年）。

○一四年）。

青島晃・土屋光永・野嶋宏二・松井孝友「一九四四年東南海地震による静岡県西部地域の軍需工場の被害」（『歴史地震』第34号、二〇一九年）。

磐南文化協会編『磐南の寺院——磐田市・袋井市のお寺』（二〇一七年）。

青島晃・土屋光永・中野幸子・野嶋宏二・松井孝友「アンケート調査に基づく一九四四年東南海地震による静岡県太田川低地の噴水・噴砂発生地点とその地形・地盤条件」（『歴史地震』第36号、二〇二一年）。

敗戦、そして

袖井林二郎『マッカーサーの二千年』（中公文庫、一九七六年、初出一九七四年）。

竹前栄治『占領戦後史』（岩波現代文庫、二〇〇二年、初出一九九二年／一九八〇年版を九二年版で全面改訂・増補）。

池端千賀子「占領期日本における宗教改革…占領軍による宗教の自由との苦闘」『一神教世界』四、二〇一三年）。

第二部 解説編（口絵で紹介していない使用図版について）

「養兎」 七三七頁使用イラスト…杉山侑暉

「藁の戦争」 八〇九頁使用図版 保永堂「東海道五十三次之内 袋井」（袋井市歴史文化館所蔵）

